

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2008年 11月 8日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム愛の家 (鹿児島県)
-------------------	------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名	石松 成子
	氏名	腰 高行
事業所側対応者	職名	管理者
	氏名	園田 タヅ子
		ヒアリングを行った職員数 3名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4676300132号		
法人名	有限会社 園田福祉サービス		
事業所名	グループホーム 愛の家		
所在地	鹿児島県曾於市大隅町月野1562-3 (電話) 099-471-2220		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月8日	評価確定日	平成20年12月13日

【情報提供票より】 (20年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤14人, 非常勤 3人, 常勤換算15.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18名	男性 1名	女性 17名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	7名	要介護4	3名
要介護5	5名	要支援2	
年齢	平均 88歳	最低 70歳	最高 103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津曲胃腸科整形外科 ・ ハッピーデンタルオフィス
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの畑には季節の花や野菜が豊富に育てられ、収穫した野菜などにより、日々の食卓は入居者にとって楽しみになっている。入居者・職員が、協力して味噌や保存食をつくったり、一緒にテレビを見たり、家族的な雰囲気がある。年1回の慰安を兼ねた研修旅行を実施し、職員のチームワークも良く、主治医や訪問看護との連携による、重度化や終末期の対応など、積極的に取り組み、それぞれの思いを大切にされたケアを実践している。庭先の東屋でのお茶呑みなど、地域住民との交流も進め、地域に開かれたホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みは、外部研修には交替で参加し、地域の研修会やホームの勉強会など研修の機会を確保し、働きながらトレーニングしていくよう取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価について職員に説明し、前向きに取り組み、評価を活かして改善項目を検討し、積極的にサービス向上に努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で、地域住民との交流や防災訓練の協力体制など、多くの意見が話し合われ、サービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談窓口、意見箱について説明し、家族から意見や不満等聞くように努めている。運営推進会議に家族代表にも参加してもらい、意見を聞く機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の農協祭りや夏祭り等に参加している。中。高校生の体験学習夜ボランティアを受け入れ、入居者と交流を勧めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、地域を大切にしたいとの思いを込めて、地域密着型サービスとしての役割を考えた理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングや朝礼時に理念について確認し、ホームの所々に理念に基づいた、わかり易い言葉で目標を掲示し、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の農協祭りや夏祭り等に参加している。中、高校生の体験学習やボランティアを受け入れ、入居者と交流するよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価について職員に説明し、前向きに取り組む、評価を活かして改善項目を検討し、積極的にサービス向上に努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者のために、地域住民との交流や防災訓練の協力体制など多くの意見が話し合われ、サービス向上に活かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席してもらい、認知症対策など意見を聞き、福祉ネットワークの立ち上げなど市担当者と協力関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居直後は毎日様子を報告し、安心してもらっている。毎月ホーム便りに入居者の暮らしぶりや担当者からの一言を記入し、家族に送付している。病院受診は電話で連絡・報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、意見箱について説明し、家族から意見をもらうよう努めている。運営推進会議に家族代表にも参加してもらい、意見を聞く機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動による影響について理解しており、異動はほとんどない。職員は2ユニットの利用者を把握しており、入居者も職員も1つの家族のような信頼関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も交替で参加して、地域の研修会は情報を提供し、研修の機会を確保している。ホームの勉強会もミーティングの後ビデオ研修やロールプレイ等工夫して実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のネットワークや地域の連絡協議会に参加し情報交換をしたり、相互訪問するなど交流し、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に入居前に見学してもらったり、入居後慣れるまで、自宅に訪問し日中の支援をして、徐々に馴染めるよう家族と相談し工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1つの家族として接しており、餅つきや味噌作りなど、利用者に教わりながら過ごしている。昔の話や、テレビの話など楽しそうにしており、支えあう関係が出来ている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から入居時のアセスメントや毎日の会話から、思いや意向を聞き取るよう努めている。担当者を決めており、より利用者を理解するよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を大事にして、家族や主治医の意見を取り入れ、職員と話し合い、自分らしく暮らしてもらえよう利用者本位の介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に評価を実施し、期間に応じて見直し、状態変化がある場合は、主治医や関係者と話し合い、随時見直しをしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしてい る	訪問看護ステーションと連携し、医療連携体制 がある。通院介助や墓参り、買い物支援など家 族と相談し実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支 援している。協力病院の往診や急変時の受診が でき、適切な医療が受けられ、安心して暮らし ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い時期から本人や家族等ならびに掛かり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している。	利用者や家族の意向を尊重し、方針を共有し重 度化や終末期のケアを実践している。主治医や 協力病院・訪問看護・職員で協力し、家族に とって悔いの残らない看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよう な言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱い をしていない	入居者のその人らしさを尊重し、言葉かけや対応 に配慮している。個人情報保護についても研修 を実施し、写真掲載も家族の確認を得るなど配 慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを大切に、起床や食事時間な ど臨機応変に対応している。買い物や散歩など も入居者の希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家栽培の畑で収穫された豊富な野菜を利用し、献立を決め、下ごしらえや片付けなど、できる人には手伝ってもらい調理をしている。外食の機会もあり、食事を楽しみにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日を決めているが、利用者の希望があればいつでも入浴できる。入浴を拒否しがちな入居者にも工夫して入浴して貰っている。重度の方も二人介助で湯船に入れるよう支援し、喜んでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや取り入れ・洗濯物たたみ・テーブル拭き・小豆や落花生の皮むきなど出来る事はしてもらっている。季節の花見や地域の祭りを見に行ったり、気晴らしの機会を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に花や野菜を採りに行ったり、東屋でお茶を楽しんだり、散歩をしたり戸外に出るよう勧めている。ドライブを兼ねて自宅訪問や買い物・花見・外食に出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者も職員も鍵をかけない暮らしの大切さを、認識しており日中は鍵をかけていない。居室もはき出し窓であるが入居者の様子に気がつけており、出て行く利用者はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と協力して夜間想定避難訓練を実施している。地域消防団との協力関係も構築されている。台風の前は水をためるなど工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自家栽培の新鮮な野菜をスープなど食べやすく工夫し、鼻腔栄養や刻み食など介助の必要な入居者も時間をかけ支援している。水分摂取もお茶ゼリーなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に面した明るいいりびングのソファに座り、テレビを楽しめる家庭的な雰囲気がある。加湿器や床暖房など入居者が快適に生活できるよう工夫している		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた、タンスや鏡台、テレビなどの家具を持ち込み、家族の写真など飾り、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。